THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

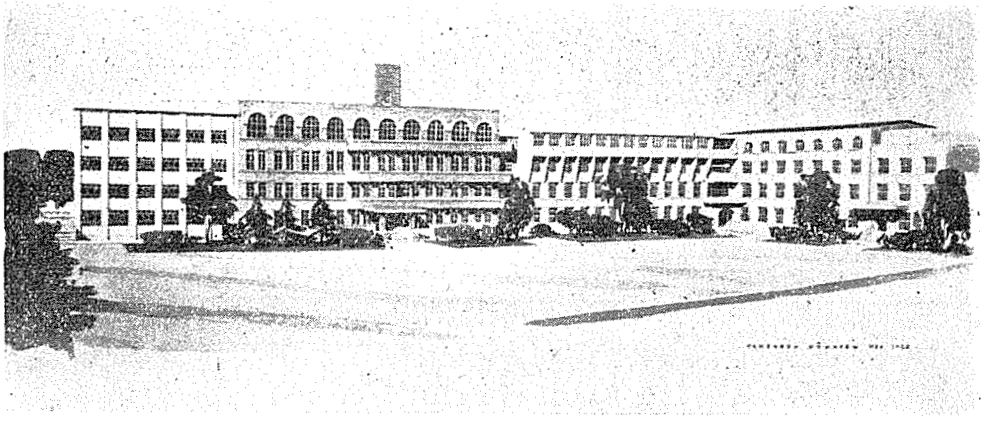
Osaka, June 15th, 1953. No. 260

關西大學學報

第 2 6 0 号

昭 和 2 8 年 6 月

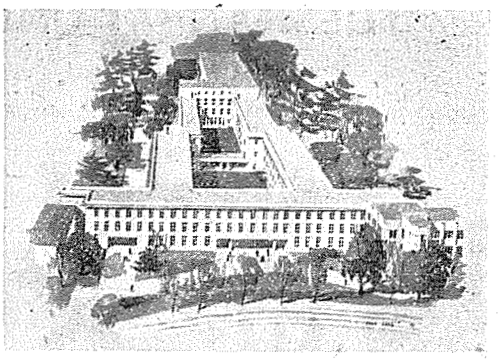
昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
復刊第三〇号（通巻第二六〇号）
昭和二十八年六月十五日発行（毎月一回十五日発行）



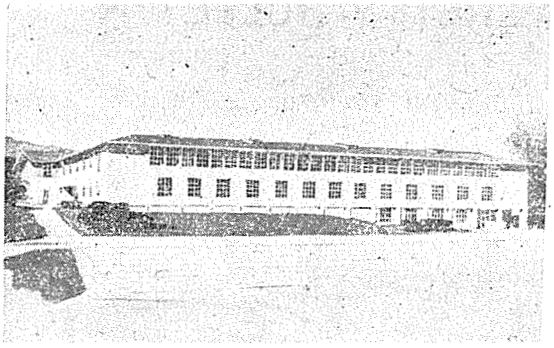
改築後の天六學舎全景

關西大學學報局

関西大学拡充計画



（第一図）



（第二図）

永年の計画であつた千里山学舎本館の増改築を中心に尚志館の改新築天六学舎増築及び第一商業学校千里山移転に伴う校舎新築は、昭和二十八年度に於いて実施する事に決定一部は既に工事に着工した。

千里山学舎本館の増改築（第一図参照）は昨年度その一部を完成本年度からは引続き威徳館跡に講堂を含む大教室群を建設、その第一期は昭和二十九年二月に、第二期は同年五月に夫々完成、次いで正面旧本館の改築は昭和二十九年度に於いて実施され三十年二月に完成の予定である。増改築される本館は鉄筋四階一部地階総延坪約二五四〇坪、両翼に図書館及び大学院を控えた大殿堂が千里山に出現する。尚第一期及第二期工事に於いては講堂（五〇〇名収容）を始め、大教室（三〇〇名以上収容）二、中教室（一〇〇乃至一六〇名収容）八、小教室（五〇名収容）六の外予備小教室二が増築され、従来に比し設備等も最も新らしい型式を採用し改善される。

天六学舎の増築工事（表紙参照）は既に着手されその完成を急いでいるが鉄筋コンクリート造四階地下一階の瀟洒な建物がこの秋には出来上り、中教室三つが誕生する。又各教室には反響を考慮して天井に吸音装置が設備されて居り二部天六学舎移転の最大難関であつた教室不足も完全に解消出来る。

尚志館新改築は千里山学舎に於ける学生課を主軸とした輔導、厚生の諸施設の集中が予定されて居り、第一高等学校（第二図参照）は千里山外苑に九月完成の予定で地鎮祭が行われ着工した。今年度に於ける計画は以上の通りであるが、昭和三十一年には研究室及学生会館等の建設が予定されておりこれら完成の暁は関西に於ける一大学園の名に背かぬ充実されたものになる。（解説）

☆　☆　☆

第二六〇號　目次

関西大学拡充計画……（2）
終戦当時の思い出……梶原秀男（3）
関西大学会計士受験会……（5）
学内報……（6）
校友……（7）
西鶴連句と近世庶民法…春原源太郎（11）
紹介・山荘四季の夢……（12）
学生……（13）
考え物新題（其四）……一鶏学人（15）
領主・代官・農民……末永雅雄（87）
日々是闘争……（11）
関西大学法学会改組について……（19）
編集後記

終戰當時の思ひ出

梶原秀男

舞鶴の夏はいつも暑いが、昭和廿年の夏は殊に暑さがきびしいやうに思はれた。海軍道路を歩いてゐても、やはらかくなつたアスファルトから蒸発する熱気でむせ返るやうだつたし、ぼくの勤めてゐた海軍機関学校の校庭に入つても、白い砂利の照り返しが神経を煎りつけるやうに刺激し、身体が焦げるみたいだつた。八月の上旬、原爆が先づ広島に次いで長崎に落下した。物理学担当の文官はいくらアメリカでも原子爆弾など出来る筈はない、そんな物ができたら地球がつぶれてしまふ、と言つてゐた。間もなく武官教官全部に上陸止め(外出禁止)の命令が出た。それは如何なる理由によるものかぼくらには解らなかつた。その暫らく前頃から武官の中には本土決戰にそなへて竹槍訓練の必要を本気で説く者もゐた。帝国海軍も情ないことになつたとぼくは思つた。しかし毎日学校の食堂で武官と一緒に飯を食ひながら彼等の話を聞いてゐたぼくは、戰況の不利はもう何年も前からおほふことのできない事実であると思はれた。いやミッドウエイ海戰がすでに戰局の大きなヤマであつたことは武官連が一致して認めてゐた所である。大本營発表がウソをついてゐることは大分前から解つてゐたから、軍令部総長の及川大将が学校へ講演に来て、昔の兵法に「七分三分の兼ね合ひ」といふことがある。戰況が不利の場合はえてして、こちらに三分の利しかなく、敵方に七分の利があると悪いやうに思ひ勝ちだが、さういふ場合客観的にみると五分五分のことが多い。味方の損害はよく目につくが敵の損害はよく分らぬからだ、といふ風な話をするのを聞いても、気休めを言つてるなぐらゐにしか思へなかつた。

到頭八月十五日が来た。その日は政府の重大放送があるといふので、全員校庭に整列し、固唾を呑んでその時刻の来るのを待つた。やがてラウドスピーカから声が流れ出したが、それは低く、しはがれたやうな声でよく聞きとれなかつた。所々は意味が解つたが、全体としては明瞭でなかつた。放送がすむと教頭のH少将が訓示をした。「唯今の天皇陛下の御放送で諸子も聞いた通り、日本は愈々最悪の事態に立ち到つたが、あくまで聖戰完遂の覚悟を堅めることになつた。陛下の悲壯な御心は拜察するだに畏れ多いことである。よろしく大死一番、最後の勝利に向つて邁進せよ……」といふ意味のものだつた。所が間もなくラヂオのニュースで事態の真相は明瞭になつた。ポツダム宣言受諾、日本の無条件降伏である。事の意外に教官一同愕然とし、校内は異常な興奮に包まれた。詳細をたしかめるため直ちに副官が海軍省に出張、その帰来を待つて臨時教官会議が開かれた。席上、副官から聞いた降伏に決定するまでの経緯を一同に報告する教頭の眼から涙が流れてゐた。若手の武官教官のなかにはそれを聞くと「かゝる政府の決定は弱腰の重臣が、一方的にきめてしまつたものである。われわれはすべからく君側の奸を排除し、徹底抗戰をなすべきである……」と激越な口調で主張する者が多かつた。教頭のH少将は静かに皆の意見をきいてゐたが、やゝあつて「勅語はあくまで陛下の御言葉であり御意志である。たとへ意見の具申者や起草者が他にあつたとしても、ひとたび陛下の御言葉となつて出た以上、われわれは絶対にそれに服従しなければならぬ。それが軍人精神といふものである。それを君側の奸とか何とか、以ての外だ。貴様らは一体忠義といふことを今まで何と心得て来たか！」といつて若い武官連の方に向ひ大声叱咤した。

八月の廿日頃、妻はその二、三日前子供を連れて実家へ帰つたので、ぼくはひとりで自宅の居間に寝ころんで前途のことなどボンヤリ考へてゐると突然海軍省から電報が来た。「ツウヤクヨウイントシテサセボニシユツチヨウヲメイズ」と書いてある。ぼくは心中うらめしかつた。他の文官連はもう浮足立つて早手廻しに海軍退職後の就職の相談までしてゐる人もゐる。実を言へばぼくだつて内心は一日も早く海軍から足を洗ひたい気がしてゐたのだ。それを何の因果か英語の教官だつたといふ理由で、遠い所へやられて、今までしたこともないことをやらされるのである。戰争中は敵性語なんか教へてゐる奴と、武官のなかには白眼視する奴もゐて肩身のせまい思ひをしてゐたのにとんだ貧乏くじを引いたと思つた。しかし仕方がない。単身佐世保に向つた。途中の駅で会つた旧知の武官は、「最後の御奉公だ、しつかりやつてくれ」といつた。

佐世保の県立女学校が鎮守府になつてゐた。若くて未亡人になつた女学校の女の先生がやはり軍の飜訳をやらされてゐたが、軍の隠匿物資や軍の横暴などについてぼくに語つた。一人娘にピアノを習はせてゐると言つた。若い予備士官に遊びに来るやう誘つてゐた。ぼくが駅につ

いたとき知人を見送りに来てゐた彼女にたまたま道をきいて知り会つたのだが、女学校まで荷物の一つを持つてくれた。ぼくは鎮守府でアメリカ軍に提出する文書の飜訳をしたり、通訳に出たりした。飜訳の方が楽でいゝと思つたこともあり、辛気くさい気がすると通訳に出掛けた。いくらでも仕事があつた。通訳に出るとアメリカ煙草やチョコレートなどをくれるので、浅ましい話だが、その方がいゝと思つたりした。一度パイロットの通訳に行つたことがある。佐世保港外の沖合に碇泊してゐるリバティ型輸送船を誘導して入港させる日本人の水先案内の通訳である。この時はアメリカ人の船長はわれわれに対して頗るいんぎん丁重であつた。後で聞くと当時はアメリカ人は未だ日本人は何をするか知れないと気味わるがつてゐて、はるばる日本まで届けた輸送船が無事入港できるまでは心配で堪らなかつたさうである。石鹸をくれたり煙草をくれたりして機嫌を取るのである。未だ日本人が珍らしい時分であつた。フアスト・メイトにも会つたが、歓迎してくれ、キヤビンのなかを見せてくれた。どの部屋にも女のきれいな裸体写真がピンでとめてあるのでびつくりした。日本の場合と比較して考へたからである。

日本の紙幣を見せてくれというので、拾円紙幣を一枚出すと、それをくれといふ。よろしい、といふと、一弗紙幣を代りにぼくの手に握らせた。それはいらぬから、これで煙草を買つてくれといふとラッキイストライクをワン・カートン持つてきた。又ある船員はぼくが偶然もつてゐたハイキング用のコンパスを珍らしがつて、是非ゆづつてくれとたのむのでそれもやると石けんを一打くれた。ぼくは戦時中海軍の士官が南洋の島で土人に安全剃刀の刃を一枚やると随分色んな物をくれるといつた話を思ひ出し、物々交換の面白さを味つたが、あんな旨い話はその後一度もなかつた。アメリカさんも日本人に馴れるに従ひ、だんだんケチになつたのである。

別の機会に通訳をしたアメリカの将校は目的地へ行くジープの中で手帳に書いた「花柳病」といふ漢字をぼくに見せて、これは何の意味かときいた。ぼくはVenereal diseaseのことで文字通りにはflower-willow-diseaseといふ意味だといふと、ふん！と感嘆したやうな顔をしてみせた。

こんな事を書いてゐると面白いことばつかりだつたやうに聞えるかも知れないが、随分エライ目にも会つた。佐世保へついて一ケ月ほど経つた頃、ぼくは九州の南端にあつた海軍の航空基地鹿屋へ転勤を命ぜられたのだ。それが即日出発せよ、という命令なのだ。しかも汽車に乗つてゐてはおそくなる（当時の列車輸送は事故が多かつたのである）からバスに乗つて昼夜兼行で急行しろといふのだ。若い少尉になりたての予備士官五名ほどと出発した。始めは乗用車一台つけてくれぼくはそれに乗つてゐたのだが佐世保市外に出たとたん故障をおこしてエンコしてしまひ、結局バスで九州を縦断して鹿屋市まで強行軍をすることになつてしまつた。ところが市内を走つてゐる間はよかつたものの、市を出はずれると、道路がわるいのでバスはたえず上下にはげしく揺れつづけ、身体はガクン〳〵動きどほしである。夜も休まず走りつづけるから、疲れても休むこともできず、眠ることもできない。しまひに身体がクタ〳〵になつてしまつた。こんなに急ぐ必要が一体どうしてあるのかテンデ解らなかつた。食糧は出発のときに貰つた乾メンボウと罐詰だけである。唯さへ身体が疲れ切つてゐる上に、乾パンとカン詰ばかり昼も夜も食ひつづけるので到頭下痢を起してしまつた。途中バスの故障を直すため久留米市附近の宿屋で一休みし、そのまま熊本市へ向つた。熊本城の傍でまた車の故障で止まつたとき、日はとつぷりと暮れ、雨が土砂降りに降つてきた。ぼくはさきほどからしきり催してくる便意をこらへにこらへてゐたが、そのときホットして車外に出て用を足した。降りしきる雨を片手に持つた傘でわづかによけながらしやがんでゐたぼくはつくづく情ない気がしたものである。ぼくはあの雨の夜にうらめしい気持で眺めた熊本城の黒々とした影を今だに忘れることができない。

だが夜が明けてみて、自動車の故障は遂に修繕不可能であるといふことが判つた。これが天がわれらに与へたせめてもの恵みであつた。一行は相談の結果、汽車で行くことに決めた。それで鹿屋市についた頃はぼくも大分元気を回復してゐた。しかし着けば早々に仕事を始めればならない。大学英文科出の予備士官は全部かり出され、その外海軍の学校関係の語学教官、それでも人手が足りないのか呉や佐世保の工廠にゐる若い技術士官までむりやりに引張り出されて来てゐた。一人どうしても英語は駄目でやれませんから帰して下さいと隊長に哀願してゐる若い技術士官がゐた。大学を出てさへゐれば誰でも英語なんか喋れると軍人は簡単に考へてゐるのだ。だからそんな願ひなど仲々きき入れはしない。しまひにその若い士官の眼には涙さへうかんでゐた。隊長は怒り出し、えらい権幕でどなりつけ、かう叫んだ、「馬鹿野郎！貴様はそれでも軍人か！腹でやれ！通訳なんかは腹でやれる！」

ぼくは気の毒やら滑稽やらで見てゐられなかつた。とはいふものの、ぼく自身を省みて、あまりひとの事も笑へなかつた。まだアメリカの将校で向ふのカレジを出てゐる連中の英語は解りいゝ方だが

それでもよくきゝとれぬことがあり、殊にG・Iの英語とくると苦手だつた。早口でまくし立てられると、所々の部分だけ解つても全体の趣旨がつかめない。それでは通訳はできない訳だが、所々もれ聞いた部分をたよりに何とか要旨をさぐり出さうと苦心する。こつちの言ひたいことでも、仲々適当な表現が口をついて出て来ない。のどもとまで出かゝつてゐるやうな気がするのだが、それが言葉とならないもどかしさは何ともやり切れないものだつた。自分が今まで長年学んで来た筈の英語がこんなにも役に立たぬものであつたのかと情ない思ひをすることがあつた。しかし時にはよく解る将校にぶつかることもあつて、そんなときは愉快だつた。さうなると、こちらも自信が出て来てわれ乍らよくも思ひ出せたわいと思ふやうな単語が次々と脳裡に浮んでくる。とうとうと東条内閣の批判など述べて気焔をあげたこともあつた。

アメリカ軍は上陸して来た当初はまだ日本軍に対して警戒を怠らなかつたやうである。碇泊中の軍艦へ行つた若い予備士官はピストルをつきつけられながら通訳をしたという話をしてゐた。或る夜どういふ手違ひか日本軍のトラックが街道を走つてゐたが、それには小銃が多数に積まれてあり、それがMPにみつかつて厳重な詰問を受けてゐた。ぼくはそろそろ寝ようと思つてゐた所へ突然呼び出しを食つた。現場へ駆けつけると、向ふはかなり興奮してゐる。日本軍の叛乱が、今にも起りさうに考へてゐるらしい。何かの手違ひだつたらしいのだが、説明しても仲々納得しない。話はますます紛糾してくる。ぼくの手に負へなくなりさうで弱つてしまつた。所へ折よく丁度来合はせたアメリカ生れの予備士官に助けてもらつて、やつとのことでその場は納まりMPは引揚げた。「こんな暗夜に小銃を沢山のせたトラックを走らせるなんて変ぢやないか？……」（Isn't it funny, isn't it funny……？）

そのMPの文句が宿舎に帰つてベッドに横たはつたぼくの耳にいつまでもこびりついて消えなかつた……。さういふ衝突事件はまだ外にいくらもあつた。日本軍が約束を守らぬと言つては文句をいひ日本軍は受動的抵抗（パッシヴ・レジスタンス）をやつてゐるといつて抗議文をこちらの司令官あてに送つてきた。そんなとき二世のアメリカ士官が「日本軍のカシラはゐるか？」と威丈高にどなりこんで来た。ぼくは顔付はどこまでも日本人らしいその男の顔を見てゐて実に変な気がしたものだ。

鹿屋の飛行場へもよく行つた。ずらりと並んだアメリカの飛行機の機体に女の絵がかいてあるのを初めてみたときはおどろいた。あれでも向ふの飛行機乗りは勇敢だつたのだ。戦争の初期の頃、戦場から帰つた日本の海軍士官がアメリカの飛行機乗りがこちらの軍艦に実に勇敢につッこんでくるといつておどろいてゐたが、おどろく方がどうかしてゐたのだ。アメリカ人を単に享楽的国民と思ひ誤つた所に日本軍部の重大な誤算があつた。日本の軍人は「敵を知り、己を知れば百戦あやふからず」などと常日頃いつてゐながら、実は何にも知らなかつたのだ。

この孫子の兵法を近代世界において実践する位困難なことはあるまい。敵を知るはむづかしく、己れを知るは更にむづかしいであらう。世の中の不幸や悲劇は大抵他人を知ることのむづかしさから起つてゐるやうである。（二八・六・一五）

—文學部教授—

關西大学会計士受験会

入会案内

一、本会の目的

本会は公認会計士法に定める公認会計士試験第二次試験を受検するための実力を養成し、將来有為の人材たらしめることを目的とする

二、入会資格

本会に入会する資格は次の通りである

（一）関西大学に在籍する学生
（二）関西大学卒業の校友
（三）前二者の推薦を得て委員会の承認した者

三、受験会實施要領

（一）日時　毎月二回（第二、第四日）曜日午前九時半より午後四時半まで
（二）場所　関西大学天六学舎教室
（三）科目　1簿記　2財務諸表論　3原価計算　4会計監査　5経営学　6経済学　7商法
（四）要領　計画表は毎年新規入会者を迎へた時に発表する

四、入会申込と会費

（一）入会申込　左記入会申込書に記載の上入会金金百円を添へて提出する
（二）会費　実費として月額百円を、毎月最初の受験会において納入する

五、本会の特色

本会は関西大学出身の合格者が中心となつて、公認会計士試験第二次試験を受験するための必要な諸点を、模擬試験及び討議研究によつて解明し、受験の基礎を確立するにある。然し受験生は会員各自である、目的達成の道は会員の絶へざる研鑽の中に築かれる「みづから為さざれば門扉は開かず」一にも二にも努力である。

継続せる努力なくしては合格の栄冠を獲得することは出来ない。

本会は受験生の良きアドバイザーであり得てもすべてをつくし得ない。

本会は受験生の実力を験し、その機会を与へるものであることを銘記し大なる成果を本会より得ることを願うものは、先づ自己の態度、勉学を一層積極化し、所期の目的を貫徹される様注意を喚起する。

本会に四回連続して無届欠席したるものは退会者として扱う。

関西大学会計士受験会

學内報

定例評議員会開催

定例評議員会は五月二十八日午後三時より天六学舎に於いて開催、新評議員三島律夫氏（一中校長）の紹介あり、ついで昭和二十七年度学校法人関西大学歳入出決算を承認可決、寄附行為改正委員会並びに人事委員会の各委員を夫々選出した。

人事委員会等委員選出

前掲評議員会に於いて寄附行為改正委員会及人事委員会各委員が選出された。その氏名次の通り、

寄附行為改正委員会委員

関豊馬、阿部甚吉、神宅賀寿惠、長柄金吾、浪江源治、織田佐代治、戸根泰雄、大小島真二、今西庄次郎

人事委員会委員

原田鹿太郎、角田好太郎、下条小野右衛門、内藤正剛、村尾静明、竹沢喜代治、大月伸

鍬入式擧行

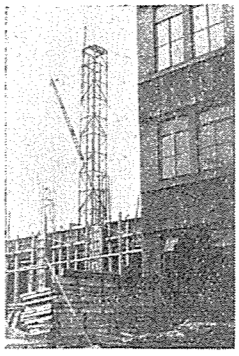
一高新築工事始まる

第一高等学校千里山本学外苑移転に伴う校舎新築の鍬入式は六月五日午前十時より雨中、大学及一高関係者生徒代表等参列して厳かに執行され、白川理事長自ら鍬を執り十一時無事終了した。（写真は白川理事長の鍬入式）

尚新築の校舎は三階建延約七八五坪で外苑のグラウンドを見下す丘上に瀟洒な姿を誇ることになり九月の新学期完成の予定である。

天六學舎増築工事進捗

天六学舎増築工事は着工以来折柄の雨季に悩まされつゝも着々進行、基礎工事を完了して既に一階のコンクリート流込作業に全力を挙げている。



人事異動

昭和廿八年六月一日附

清水宗一
末政芳信

本大学助手に任し商学部勤務を命ずる（各通）

昭和廿八年六月一日附

多田敏男
藍田香融

本大学助手に任じ文学部勤務を命ずる（各通）

昭和廿八年四月一日附

正井敬次

大学院における国際経済論研究の講座担当を委嘱する

昭和廿八年四月一日附

宮下孝吉

大学院におけるドイツ経済史研究の講座担当を委嘱する

―△教授出張▽―

◇本浪章市法学部助手は四月三十日及び五月一日の両日慶応大学に於いて開催された国際私法学会、国際法学会に出席

◇川上敬寿教授は五月二、三の両日中央大学に於いて開催された国際法学会に出席

◇上道直夫教授は五月三、四の両日明治大学に於いて開催された日本独文学会第七回総会に出席

◇宇田米夫教授は五月三日東京大学に於いて開催された日本地理学会春季学術大会に出席

◇寛田知義専任講師は五月三日より五日まで九州大学に於いて開催された日本教育学会に出席

◇飯田正一教授は五月八日より十日まで早稲田大学に於いて開催された俳文学会及近世日本文学会に出席

◇石尾芳久専任講師は五月十四、五の両日日本大学に於いて開催された法政史学会に出席

◇賀屋俊雄教授は五月十六日本学以文館に於いて開催された日本商品学会関西支部々会に出席

◇鋳方貞亮教授、矢口孝次郎教授、東井正美専任講師、荒井政治専任講師、市原亮平専任講師は五月十六日より十八日まで早稲田大学に於いて開催された社会経済史学会第二十二回大会に出席

◇秋山博愛専任講師は五月二十三日、四の両日東北大学に於いて開催された日本西洋史学会に出席

◇中井駿二教授は五月二十八日より三十一日まで東北大学に於いて開催された日本新聞学協会総会、研究会、講演会に出席

◇田中熙教授は五月三十日甲南大学に於いて開催された関西倫理学会に出席

◇吉永登教授は五月三十日より六月一日まで東北大学に於いて開催された万葉学会主催の研究発表会、研究旅行に出席

校友

大阪支部春季総会

東の東京支部と並んで常に盛会を誇る大阪支部は、母校のお膝元だけにその貫禄も十分に五月十六日午後五時より春季総会を大阪市内三国「かたいや」本店に六十四名の参加あつて開催、支部長中務平吉氏の開会の挨拶に続いて会計報告、次いで白川理事長母校側を代表して挨拶久井専務理事より大学近況報告及拡充計画の説明等あつて宴に入り、酒盃老若会員に交わされ午後八時閉会した。当日の出席者次の通り、

阿部甚吉、安藤一郎、伊藤秀一、井上博明、梅原貞治郎、海野月城、榎本昭、江口透、岡本重治、織田佐代治、大石雄一郎、大月伸、逢坂勝見、鎌田嘉之、柏元孝治、神屋敷民蔵、桂忠雄、川田実、門上敏夫、岸本芳夫、北原元茂、木村健助、栗本義重、小林昶、河野重雄、鮫島武次、下条小野右衛門、白川朋吉、鈴木武夫、瀬戸藤太郎、関豊馬、段林作太郎、田中一郎、寺西武、富永竹夫、長柄金吾、中務平吉、中井彌六、永田旭、名田京一、永沢重蔵、西本寛一、西村治三郎、西村富夫、春原源太郎、橋田豊吉、平井孝道、久井忠雄、藤本栄治郎、前田常好、松本好太郎、前田軍治、三島律夫、森芳松、山崎敬義、柳田栄次、山田一元、山根龍蔵、八木万太郎、大和英雄、吉村種蔵、横田長次郎、和田傳三、四辻詮

（五十音順、敬称略）

福岡縣支部総会

五月十七日午後六時半より福岡市東中洲日本ビール二階ホールに於て福岡県支部春季総会を開催、電話にて総会通知を受けた安井校友課長は急遽出席せられ母校の近況を詳細に報告次いで会員各位の自己紹介、記念撮影の後安井課長の発声にて福岡県支部の萬歳、池田顧問の発声にて母校の萬歳を三唱して名残を惜しみつゝ午後八時半散会した。

支部役員の改選期に就き席上改選の結果

顧　問　池田重吉、浅沼猪助、根津菊治郎

支部長　清原俊之助

幹　事　玉置転留男、高瀬卓二、須田喜三男、土屋司、森茂敏、大串慶一郎

尚当日の出席者は左の通り

学校側　安井校友課長

支部側　浅沼猪助、馬場四吉、池田重吉、清原俊之助、川口次郎、釘崎春義、宮崎久樹、森茂敏、森藤泰勝、真崎次郎、永島利秋、中津留真一、須田喜三男、玉置転留男、高瀬卓二、田中寛吾、土屋司、津上龍一、上野邦彦

千里山騎士会

馬術部O・Bの組織している千里山騎士会は五月二十日午後六時より日本食堂に於いて春季総会を開催、当日は初代馬術部長の賀来先生も出席一同懐旧談に花を咲かせた、部の現況報告、役員改選、会則の改正を行い九時盛会裡に解散、尚新役員は会長に大谷氏、副会長には藤井健三氏、中川氏が万場一致で可決した。出席者左の通り

賀来先生、金子先生

坪田、札野、岡島、藤井、北、宮本、齋藤、中川、荒木、入谷、藤井、岸本、岩崎、佐伯、上田精彌、北川、高橋、三宅の各氏

馬術部現役側

宇山主將、小林二郎主將、中井マネージャー、柏原指導係、宇津呂副將

千里山昭八会　恩師外遊壮行会開催

五月二十二日（金）午後五時半より肥後橋「大新楼」に於て今回視察研究のために近々外遊の途につかれる我等の恩師中谷、堀、矢口、森川の諸先生を迎えて壮行会を開催、諸先生には何かと御多忙の処を枉げて御来席頂いたことは吾々の心からの感謝であり、喜びであつた。定刻まだ二三葵を見せないものもあつたが記念撮影後一同壮行の宴に入る。吉田君昭八会を代表して御挨拶を述べ、恩師今回の御外遊は母校将来発展のために夫々の専門分野からの御貢献も定めし大きいもののあることを確信し心からお喜びを申上げると共に旅中一路平安をお祈りし更に御健康を保持せられ大収穫を引提げて無事御帰朝の日を心からお待ち申上げれば之に対し中谷先生から御鄭重なる謝辞を頂き一同却つて痛み入つた次第である。未だ見ぬ欧米の風物について吾々も

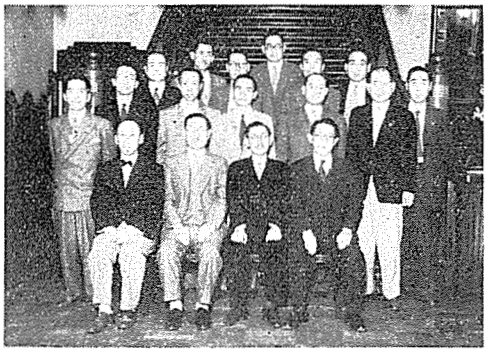
亦外遊でもするかの如き心地に駆られてか話はそれからそれえと果しもなく続いて実に愉快な数刻であつた。大いに款を尽して貰つた心算でも人間別離ともなれば又感慨自ら強いものあるを感じ乍ら八時半名残りを惜しみつゝ恩師としばしのお別れをした。

中村重男君送別会—幹事としての吾々の昭八会のために労を惜しまなかつた中村君は四国鉄道局に栄転、六月早々に赴任することになり、会員全員にその通知の暇のないまゝ、本夕を同君の送別会も兼ねて多年の労を謝し今後更に一層の御奮闘を祈り、再び逢う日までの別れを惜んだ。

母校へ記念品贈呈—二十周年記念行事の一つである母校への記念品「天幕一張」は大島、浦野、野田、斎藤、中村、平井の諸君が五月十一日天六学舎を訪問白川理事長、久井専務理事、矢野常務監事列席の上にて無事贈呈を完了し、植樹の件について席上種々懇談し、適当の地所を選んで実行することになつた旨幹事より報告あり、一同之を了承した。

二十八年度幹事選任、諸先生を送り出してから幹事の任期満了につき改選の議を提出、今年度からは二名位増員となり改選の結果次の諸君にお願いすることになつた。

大島武夫、浦野健二郎、吉田一郎、野田文雄、中家利同、長沢健一、一瀬義次、平井三朗



以上を以て九時半散会した。

尚当日の出席者左の通り。

恩師（敬称略、順不同）

中谷敬譯、堀正人、矢口幸次郎、森川太郎

昭八会側

中村重男、大島武夫、中家利国、野田文雄、吉田一郎、浦野健一郎、荒川虎一郎、田淵三郎、美吉克之祐、賀本英敏、結城丙太、宮脇慎三郎、長沢健一高橋新吉、中江巽、平井三朗（平井三朗氏報）

千里山昭六会

初夏を思はせる荒々しい雨の降る五月二十三日午後四時から千里山の大学ホールで千里山昭六会を開催、当日は留学渡欧される中谷、矢口、堀、森川の四先生を始め岩崎、木村水谷、河村信、河村宜賀屋の諸先生を迎え雨にも拘らず会員二十三名の参加を得、常に変らぬ昭六連の熱意の程が思はれた、二十幾年の昔に返つて一木一草にも懐旧し、其の頃の予科校舎の炎上跡の場所で意義ある集いをすることの喜びをのべて開会の辞とし、吉橋君よりの留学四教授に送る円転軽妙な言葉を呈し清宴に入る。雨量益々多くホールの外囲暗く屋内の電灯明るき処に老壮の師弟第三十三名入り交つて高談和気堂に満ち千金の数時間を過した。斯くて八時過ぎ、今井君より深き海、高き山にも増す師の恩を偲びつゝさゝやかな此の一宴を鉢の木の心にせめてもの慰めを托して名調麗朗の挨拶をのべ、後福原君をリーダーとして学歌を高唱し鯉の滝昇りの応援拍手を繰返し霞春の意気いまだ衰えずの感を今更に満喫し、尽きぬ名残りを惜しみつゝ閉会した、尚二十八年度の幹事は有賀、門田、吉川、上野俊、浦路と決定

当日の出席者左の通り

大学側　岩崎、木村、水谷、賀屋、河村信、河村宜、中谷、矢口、堀、森川各教授

会員　中辻、奥川、喜多、福原、青野、嘉根、寺田、佐伯、斎藤、羽淵、後藤、岡部、楠井、今井、吉橋、久井、三谷、西口、有賀、浦路、門田、上野俊、吉川（順不同、敬称略）

川邊支部総会

川辺支部春季総会は五月廿四日（日）午後一時より伊丹観光ホテル（伊丹市春日ケ丘）に於て開催した。

兵庫県川辺郡の広い地域より参集の校友の事とて久方振りに「ヤア〳〵」の久濶を叙する組、明治卅七年組の深川長老を先頭に老、壮、青入交つての朗らかな懇親会でもあつた。大学より久井専務理事を御迎えして大学の近況を承り、自己紹介、役員改選、会則一部変更を終り名妓連の舞踊に興を添えて宴を閉じたのが

午後八時であつた。

役員改選の結果は左記の通りである。

支部長　深川　実

副支部長　末永甫、池田幸太郎、滝井義男

当日出席者

大学側　久井忠雄専務理事

甲川巖、倉橋貞一、藤井健造、深川重義、深川実、吉田高雄、富川竹治郎、安井章吾、山際一衛、長田千里、佐野栄二、藤原龍太、田口正春、田中一知、福竹益男、武田謙、篠原良雄、平井正彦、滝井義男、末永甫、内藤盛雄、磯野充賀（順不同、敬稱略）

布施支部総会

大阪府布施支部第二回総会は初夏の風もすがすがしい六月六日（土）午後二時半大学側久井専務理事を迎へて布施市公会堂に於て開催、塚本支部長の挨拶、久井専務理事の大学近況報告に次いで会則一部改正役員改選があつたが、城戸氏の発言で満場一致を以て支部長に塚本氏、副支部長に森、広実両氏が再選に決定した。続いて自己紹介が終るや森副支部長の肝煎で地元岸田組社長令嬢の舞踊があり清元「手まり」の舞台面に一同割れるやうな拍手を送つた。最後に広実氏のイニシアチーブで学歌齊唱があり、角帽の昔を憶ひ起し午後八時盛会裡に散会した。

当日出席者

大学側　専務理事久井忠雄

塚本万次郎、広実郁雄、森喬、城戸盛雄、滝住光二、西沢馨、野田文雄、土居昇、市村義之助、辰巳保、山田清太郎、山口佐一郎、小野幾太郎、平島隆雄、永田周一、洪完枌、大塚昭男、中津久藏、北原元茂、中谷政男、吉田彌作、上坂明、上田万年、津田種雄、島田三郎、大森一雄、黒田壽美雄、樫原信昭、村尾龍三、長谷川亀夫、岡沢忠雄、柴田忠恒、相田一彦、和田傳三、和田二郎、水野二郎、上田虎彌太、竹田達郎、川澄秋一、大南卓、吉田秀之（順不同敬稱略）

千里山十期会

六月六日午後五時半アベノ筋大市旅館に於て千里山十期会（昭和九年卒）春季総会を開催、学校側より久井専務理事、木村学長代理、渡欧される中谷教授、矢口教授、堀教授が御出席された。河内幹事の開会の辞に始まり久井専務理事、木村学長代理より学校経営に関する所信の披瀝、近況報告があり渡欧される諸先生えの謝恩会には堀教授より挨拶がありて愈々宴に移る、終始和気靄々として青葉したゝる初夏の夜楽しく酒を吸み交はしている姿はその昔の面影に映え美はしい母校愛の象徴を示すかの如くであつた。

当日の出席者左の通り

学校側　久井専務理事、木村学長代理

中谷教授、矢口教授、堀教授

会員　河内兼三、多治見広太、楳生寛玄、長谷川清一、森下善雄、藤井安郎、藤井豊光、野間季泉、鈴木正義、中山巖、河合中、小島龍太郎、山田小一、八十原武之助、森知巳、森橋次、浅野敬治、浅時野男、魚谷彌一、北川喜八郎、竹沢喜代治、永井政次、東稔頼義、松谷連哉、戸田清一、矢野文雄（順不同敬稱略）

關甲倶楽部総会

関甲出身の有志で結成（昭和二十四年暮）したわが倶楽部では、其の後開かれた春秋両期の総会毎に、雪だるま式に膨れて今では会員四〇〇名を擁する立派な社交倶楽部になつた。折から本年春の総会を、今回は三島氏母校校長に就任の祝賀を兼ねて、去る六月六日（土）の午後五時半から、堂ビル前の大東樓で賑々しく開催した。総会の次第は

一、開会の辞　中尾常務理事

一、祝辞並記念品贈呈　太田常務理事

一、謝　辞　三島関大一中校長

一、事業並会計報告　山田会計理事

一、議　事

A、会則の変更

B、役員の改選

一、母校関大の現況に就いて　久井関大専務理事

一、閉会の辞　浅野会計理事

の順序に滞りなく終り、それから懇親会に移つて、歓談時を久しうし、宴中御寄贈金品の報告、第一、二、三期生という古い所の自己紹介と余興などがあり、懐かしい校歌の合唱を最後に散会したのは九時前であつた。

因に当日の出席者は次の通り百余名であつた。

浅野清、新見久男、浅野泰秀、浅野逓之助、浅野明久、余部忠太郎、安達芳郎、入谷正次、池北与吉、今井清、井上三郎、石川正、井上吉定、岩田利男、飯田信義、井上薫、伊藤祐也、池田陽藏、惠口森太郎、太田祝次良、小野真一、大沼正利、岡本三郎、河内彦三、加藤義一郎、川上三雄、川中健次、木下晴堂、北村賢一、木下勝正、木村昌三、貴田博、工藤栄藏、国田栄一、郡栄作、小林三郎、阪本健一、酒井信夫、阪口貫一、下川兼夫、嶋田藤平、白地哲男、島田昌美、篠原昭三、隅芳郎、関山正守、巽正男、詫間重壽、田中清隆、武村安則、高橋猛、坪井鹿藏、坪井孝夫、寺岡芳男、徳島吉男、中巻弘中西貢、長田義一、中村鶴造、奈良田二郎、中尾善宣、中村真養、中村勇、中原英夫、中西純司、西岡武雄、西村

治三郎、西川静治、西村末治、西岡順一郎、野崎泰久、橋爪亮一、橋和清、橋本実、久井忠雄、平田栄一郎、広江松之助、古沢正治、古市実、星加壽、増田富三郎、前田末吉、松本喜代松、前川泰男、孫田茂雄、三島律夫、水垣幸一、鉾内重雄、南脩、村田保春、森潤次郎、森博、山本季雄、山口裕康、八木静之助、山田繁雄、山本紀男、柳内毅、山本富和、吉沢喜三郎、吉村五郎、吉岡芳男、吉富二郎、横田喜久太

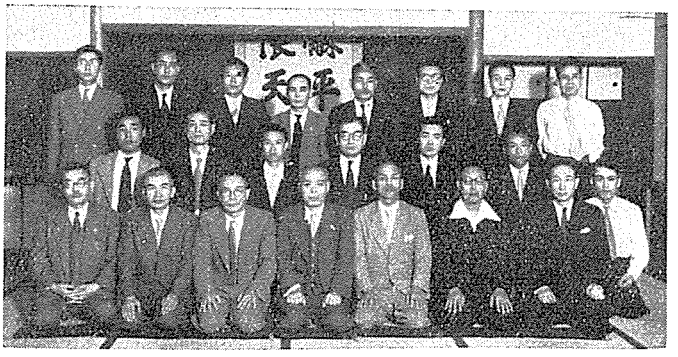
（浅野氏報）

明石支部総会

六月六日午後五時より大学側安井校友課長を迎へ明石市東仲ノ町公会堂に於いて開催、集る者二十二名、先づ支部長より支部発会後現在までの経過報告あり、会員の自己紹介に次いで安井校友課長立つて母校の近況将来の計画及び抱負等を説明、これに対し活潑な質疑応答が行われた。更に支部役員の増員及び更迭を諮つた結果満場一致左の通り決定した。

支部長　片山　元蔵（留任）
副支部長　尾嶋登亀雄（留任）
同　寺島　熊市（留任）
同　板東　良男（新任）

尚今後支部総会は支障なき限り春秋二回開催することを申合せ、記念撮影後支部長発声で関西大学の、安井課長の発声で明石支部の夫々萬歳を三唱して午後十一時盛会裡に閉会した。当日の出席者は次の通りである。



赤松健一、岩浪宏治、尾嶋登亀雄、大塚幸雄、片山元蔵、近藤健一、琴地勇酒井幹郎、鷲見孝義、田中功、（旧姓財田）梁瀬耕藏、財田次郎、寺島熊市板東良男、平井亮一、広瀬義臣、福地壽三、藤田正美、真島敏夫、前田昌富横山茂彦、和田鶴藏

（片山元蔵氏報）

備後支部総会

六月七日午後一時より尾道市久保町新地魚信旅館に於て備後支部総会を開催、当日は風雨強く参会者は少なかつたが相互の意気投合、学校側より久井専務理事安井校友課長の挨拶、母校の近況報告の後宴に入り若き学生時代を偲び時を忘れて歓談、最後に学歌齊唱萬歳を三唱して午後六時散会した。当日の出席者は左の通り

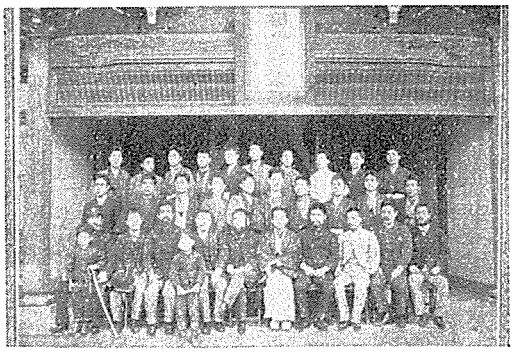
学校側　久井専務理事、安井校友課長
支部側　河合衛一、大川常夫、佐藤道夫、田中英一、八百村稔、横藤田実吉本房造

六十年前の卒業生の寫眞

福岡支部　池田氏が保存

先頃行われた福岡支部校友会を機に六十年前の明治二十四年関西法律学校第三回卒業生の記念写真が発見された。写真は永年福岡支部長であつた池田重吉氏が保存されたもので既に変色し所々虫喰いのあとも見られるが、充分当時の面影を偲ぶに足るものであり、最近殆んど散逸したこうした由緒ある写真が発表されたことは喜ばしい限りである。

池田氏はこの写真について残念な事に何の記念であつたのか忘れてしまつた、しかしわれわれの同窓生は殆んど死亡しているので尋ねる方法もない。裏に明治二十四年四月二日に校長と三年生が合同して校前で写したと書いてあつたのが唯一の記録でしよう。私は後列の右から二番目ですが、この写真を見る毎に在学当時大阪控訴院雇として、金六円を貰つて苦学した事が思い出されますと語つている。



尚写真は横約一尺縦約九寸のもの、正面に見る「関西法律学校」の額はこの種のものとしては非常に珍らしいものである。

☆……☆

☆……☆

西鶴連句と近世庶民法

春原源太郎

隣座敷を覗いて見たいのが人情で、専門違ひながら最近故潁原退藏先生などが校訂に努力された定本西鶴を読んでみる機会があつた。もと〳〵文芸作品わ鑑賞すべきで、こんな藪にらみわ邪道であるかも知れないが、西鶴連句、附句集のなかから近世庶民法に関するものを拾つてみる。

従来西鶴ものと言へば経済史の資料としてもしば〳〵取上げられ、法史学の資料としても引用されてきたが、文芸作品の資料的価値についてわ西鶴も「気をつけて見給ふべし」と言つているように替名、年代のずれがあつて、やりくりのあるところを考慮しておかねばならない。従つて法令用語の如きも意外なところに前時代の用語がそのまゝ用いられたりしているから、それがその時代の庶民用語であつたのか、作者が時代の明示を憚つて故意にその時代の用語を避けるために用ひたものであるかの区別を明かにすることわ困難である。

× ×

裁判ものとして「本朝櫻陰比事」などを書いた西鶴わ、かなり法律上の知識をもつていたものゝ如く、その他にも日本永代藏、置土産、織留、懐硯などわ勿論五人女、一代男などにも多くの庶民法的な問題が出てくる。

オランダ流などと新しがりのところを見せて附句のなかにわオランダ語を交へたりしているが、その時代に生きた人わ矢張りその時代の法律生活を詠んでいる。但し大阪のうんだ西鶴も諸国を遍歴し江戸居住説もあるので大阪庶民法と限定することわできないであらう。

二百十日枝をならさぬ梢也　定方
天下のおふれ風の梅が香　均朋
御法度も守らぬ君が代々を経て　本萩

文芸作品に共通する法令の礼讃や非難が一応詠まれている。

下々までもとるなつはくら　貞因
凡狸の毛類御法度　本萩
なり物の法度をふるゝ草の庵　友雪
留山ふかき伊駒かつらき　益友
伏見山御役免許の跡とめて　均朋

江戸時代初期に益鳥保護策がとられたものか燕の捕獲禁止、奢侈禁止、高貴の逝去に鳴物停止の町触、立入禁止の留山、秀吉の伏見免税も庶民生活に関係あるが

奉行かはりの町人の末　益翁
諸商売の相場書まで提出させる町奉行

交替の方が直接である。

袖の下寝覚の里の包み銀　西鶴
月に暦とをり手形をあらためて　如昔
おはしといへと女手形は　友雪
賄路公行わ江戸時代の名物で法律生活史上看逃すことのできないことであり、関所通行に「まくるぞと女をおどす関所まへ」などゝ川柳にも詠まれているように女旅に関所の負担わ想像されよう。

公事だくみ滝の水上何をあらふ　一時軒
因幡の山は公事びいき重る　西鶴
よい曇のかゝる公事宿　〃
公事宿よりもわかる春の野　〃
際目論曇はさておのつから　友雪
借銭曇芭蕉は破れて　西鶴
町中をよへはこそ爰に来りたれ　均朋
御めしの公事人きくほとゝきす　〃
一番公事立さはぎたる其中に　賀子
一番公事の埒も曙　西鶴

公事だくみ、公事びいき、公事宿、境論、借銭公事等訴訟事件にわさま〴〵の関心がもたれるが、江戸時代の訴訟にわ当事者のみならず年寄、家主、五人組まで出頭しなければならなかつた。一番公事の句わ訴訟当事者が酒肴を持参して腰掛で昼食をとるので、酒食持参を禁止した訴訟風景までがしのばれる。公事宿わ通例「訴訟事件で地方から出て来た人の泊る宿」と説明されるが、単なる旅宿でわなる訴訟の補助的機関で地方から来た者だけが利用したものではない。

追訴訟身の程しらぬ秋の蟬　西鶴

野間光辰氏の註わ「繫争中の訴訟に、新たなる訴因を挙げて訴へること」となつているが、近代民事訴訟的説明では江戸時代法の手続を理解することわ不充分で、この時代の追訴といふのは裁許不履行を訴へることである。

代官の心まかせにさはかれよ　友雪

信、不信いづれともとれる。

恋の淵松明くはつとともし立　友雪

滑川の松明で著明な北条時代の名判官背祇藤綱を滝川政次郎博士わ大平記の作者が創造し馬琴によつて有名にした人物であるといわれるが、右の句が定本西鶴註の如く藤綱の故事とするならば明和四年に生れた馬琴だけの功績であるか否か疑問がでてくる。

× ×

財産法に関係のある句を拾つてみると

あかりまたるゝ物は買置　如音
囲ひよりつゞけてはなし〳〵ては　本萩
聞時そ秋は悲しき下り口　梅翁
今朝見れば霜月初の質の札　鶴水
片見世は質取莽す軒の松　均朋
かし銭や救ひとらるる御はうへん　西鶴
けふもまた拘定方のおさいそく　夕鳥

笘屋形さて藏屋敷求められ　柴舟
栖のしれぬ天狗たのもし　西鶴
死一ばいの銀はかりの世　西国
年切か旅の客僧おしとめて　友雪
泪猶年ン切まして質の小野　西鶴
奉公人渡りくらへて小笠原　〃
掛とりに是まであらはれ参たり　均朋

分散に入らぬは萩の錦なり　難波土産

「大阪町人の占買占売、質札、質店、名目銀、藏屋敷、取退無盡、死一倍、年切掛取り等債権各論の教材に利用されそうな句がしば〳〵現れる。分散の句わ西鶴評語によれば「今ときは仕掛ものありて身代をつふすなり、是は吟味してまことに、極まり女房の衣類、道具は算用の外とぞ」と日本永代藏に現れたような脱法的分散のあることを説明しているが、この一句を詳解しても大阪分散法の概要を知ることができるであろう。「萩の錦」わ秋の萩か、女房の衣裝か、註によれば後者のようである。

朱座はもと堺の浦をこもこにて　西鶴
酒のかぶには武庫の山本　夕鳥

座、株の独占事業に灘の銘酒わ懐しい。

× ×

身分法に関係ある句について「本朝櫻陰比事」にわ双生児の長幼から論じられている程で人間一代の身分法的観察わ詳細である。

人なつておばの気に入花の山　西鶴
扶持取て廿余年は脇ふさぎ　〃
脇ふさいだる衣かりかね　貞因
脇ふさぎわ成年と婚姻の二つに用いられる。

約束も時付をして仲人かゝ　西国
仲人かゝ今はゆるりと空ね入　西鶴

業とする結婚媒介が当時にもあつたこと、手数料わ持参銀の一割とすること、江戸と同じく「好色五人女」の「しやべりのなる」の如き存在が結婚風俗とも離婚法とも関連する。

婆婆の縁二世とちかいてかく鼻の　近利
帰里土産に冬咲梅打て　艶山

夫婦二世、主従三世の封建時代に結納から里帰りまで儀式化した民俗が新憲法の男女平等宣言にもかゝわらず今尚行われていることは法史学の立場から興味あることで法学の進歩と法律生活史が対照される。

高きにも百気はおなし事ぞかし　元知

この一句にとゞめをさゝれる根本問題であろう。

去られ荷や生田の里を過ぬらん　友雪
あれが見た櫻もちらせ去荷もつ　難波土産

江戸時代法における「去り荷」の処分即ち離婚と妻持参の諸道具、持参金等の処置に関する慣習法の発達わ厳重であつた。

後妻や摺子木味噌こし杓子掛　西鶴

「むかし〳〵物語」の筆者わ祖母の体験談として武家の妻の女騒動、後妻討（うはなりうち）の状景をのべているがこの句雑然たる炊事道具の名にさこそとしのばれる。たゞしこの句の当時実際に行われたであろうかわ疑問である。

所務分に成きぬの織とめ　西国
印判と泪の数をあらためて　由平
それ〳〵に猪名野の末も讓状　素敬
姓鞍に世を渡しても色深し　西鶴

所務分けの大法わ「世間胸算用」「西鶴文反古」などに詳述されるが「本朝櫻陰比事」「日本永代藏」「西鶴置土産」「西鶴織留」各所に散見する西鶴の理想とする相続法で「かたみわけ」の習俗わ今日でも残存するが、江戸時代にわ長子相続法が確立していなかつたから隠居と書置（遺言）相続を原則としつゝ長子に六分の優位を認める思想を示している。

なき跡の居所を裁許に取むすび　西鶴
四の五のと世継の花に江戸公儀　如風

町人相続法の根本問題は店舗の相続人を定めることである。川柳にわ後家も黄色な声を出す相続争ひが多いが、江戸公儀にまで持出される「御仕置例類集」（天明五）長堀茂左衛門町泉屋万次郎の相続一件などの実例と考へ合せて深刻さを感じる。

介張の月行方や丹波越　西鶴

勘当、久離わ用語上の区別があるにも拘らず多くわ混同され、内証勘当わ好色文学につきものである。江戸わ銚子が勘当の代名詞となつていたが京阪わ丹波越を代名詞としたようである。（理事）

紹介　山荘四季の夢

元本学監事
法学博士　武田宣英著

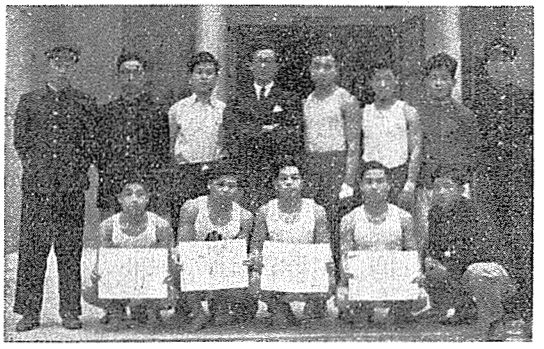
著者武田宣英先生は本学の前身関西法律学校第一回の卒業生であり、本学監事をも勤められた人、所謂明治初期から中期にかけての自由民権思想が謳歌された二十二年に卒業された著者が日常生活の貴い体験を通して真の自由、民主主義を説き、関西大学の伝統精神茲に在りと喝破されるあたり、正に古武士の面影がある。思想の叙述方法の聊さか時代のズレが気になるが敢えてそれを非難するにも当らぬであろう。

本篇「山荘四季の夢」に於いて本学創立者児島惟謙先生の露帝暗殺未遂事件判決に関して当時を知る法学生であつた著者の語る秘話は正に本篇の圧巻である。本書は本篇「山荘四季の夢」の他、著者の自叙伝である「風樹の記」、「母の再来」、及び御令閨の「武田家の人と為りて」の三篇が收録されている。「風樹の記」には著者遊学当時の関西法律学校の様子が判り興味が深い。　（O）

—学習社刊、二〇〇円—

（註）本書購読御希望の方は関西大学経理局迄御申之下さい。

學生



メーデーに明けた五月、若き世代の血が、緑の風の中に乱舞して、青春を心ゆく迄楽しんでゐる。体育、学研、文化の各部が夫々のパートで最善の努力を傾けてゐる。此等の記録が不完全乍ら集められて学園の一つのプロフィールを示してゐる。

⊙陸上競技部＝第三十回関西学生陸上対抗選手権は五月四・五両日、フィールドに優勝71点、トラックに61点を得、綜合で132点を獲得優勝したが、棒高跳に横枕が3米95を跳んだが、4米台えの希望に將来の活躍が期待される。約一ケ月後の秩父宮賜杯第六回西日本学生対校陸上選手権は台風接近による悪天候のもとに高松、屋島陸上競技場で開催されたが、第一日（六日）指山が砲丸に13・05メートル（大会新）で優勝し、好調な辷り出しを見せ本学は第二日各種目に得点を加えトラック45点、フィルド57点、綜合得点102点で昨年に引続き連続優勝した。

⊙レスリング部＝今春多数の主力選手を送り出し、今春のリーグ優勝は不可能であると云ふ下馬評を裏切り、新人群の活躍により昨秋に引続き同大・関学を敗り優勝の栄冠を得た。

五月二十三日

第一試合　本学7—2同大　神戸　Y・M・C・A

第三試合　本学6—3関学

フライ級
○大川　判定　川崎
○横山　首固め　8分5秒　清水

バンタム級
坂　判定　田村○
○佐々木　判定　佐々木

フェザー級
○井上　体固め　8分55秒　山田
宮崎　体固め　7分30秒　小寺○

ライト級
○清谷（兄）　判定　三ケ尻
○清谷（弟）　判定　植田

ウエルター級
宇賀　体固め　1分55秒　大滝○

⊙軟式野球部＝春季リーグ開幕以来好調を続けてゐたが5月24・25両日関学戦に連敗を喫したが今季8勝2敗で優勝、同時に最高殊勲選手北川、本塁打王＝島津四死球王＝井上が夫々の賞を得た。

⊙ホッケー部＝リーグ開幕以来傳統の強みを発揮して、関西学生の覇者となり、続いて二十八年度東西対抗ホッケーに出場熱戦の末

東軍2（0—0、2—2）2西軍（本学単一チーム）

で引分けた、尚春季リーグ5月の戦績は次の通り

5月16日　本学19（9—0、10—1）1　和歌山

5月17日　本学15（9—0、6—0）0　和歌山

5月24日　本学12（5—0、7—0）0　大市大

⊙体操部＝第三回西日本学生新人体操大会は5月24日、北野高校で行はれ、男子個人、綜合種目別に夫々左のやうな成績を得た。

総合1位　坂下・45点35、種目別徒手1位　山木・8点6、跳馬　山木・8点4（カットは五月二十四日第三回西日本学生新人体操会後写す）

⊙野球部＝覇権をかけた関々戦は一勝一敗の儘天候悪化により決勝を六月十六日に持ち越したが、大津、佐々木等の負傷も快復し有利に試合することが出来るので本学にとつて非常なプラスになる。過去の同大戦及び関々戦一・二回戦を顧みると、

5月27日対同大一回戦には同大藤田投手を六回にKOと一方的に

本学　7—3　同大　於西宮

で圧倒し去つたが、翌28日は延長十回熱戦の末

本学　6—7　同大

で決勝戦を翌三十日、藤田登、吉村の対戦となり九回裏同大必死の反撃をしりぞけ

5月30日　本学　6—4　同大

で同大を降し、勝数同率の関学との決勝戦によつて今春の覇者が決定することになり、6月3日吉川、吉村両エースの対戦となり好投手戦を展開したが、本学九回裏必死の攻撃も空しく

5月3日　本学　1—2　関学　西宮

で惜敗、翌四日本学は吉村に連投を強ひたが一投、一打を争う接戦となり終回迄勝敗の行方を決定することが出来なかつたが

5月4日　本学　4—3　関学　西宮

で関学を敗り覇権は六月十六日迄おあずけの形となつた。

⊙ボクシング部＝今春福本以下多数の優秀選手を送り出したが、第六回関西学生

ボクシング・リーグ戦が五月十五日、府立体育館でその幕を切つて落した。その戦績は次の通りである。

5月15日　本学 17——10 近大

ジュニヤー
フライ級　○葛木 TKO 3回1分14秒 田上

フライ級　○黒川 判定 津田
　　○佐藤 判定 島野

バンタム級　○稲葉 TKO 1回終了 福島

フェザー級　○吉津 判定 松本
　　三国 判定 坂田○

ライト級　○成瀬 TKO 1回終了 大塚

ライトウエルター級　○安田 TKO 2回1分35秒 中村
　　○遠藤 TKO 1回2分45秒 酒井

5月20日　関大 15——12 同大

J・フライ級○河戸 判定 佐々木

フライ級　○黒川 判定 平井
　　吉津 判定 上中○

バンタム級　稲葉 判定 藤原○

フェザー級　○三国 判定 安田
　　○成瀬 判定 岸本
　　○安田 判定 瀬藤

ライト級　尾白 判定 中田○

ライトウエルター級　○遠藤 判定 前原

事実上の優勝戦と見られてゐた対同大戦に接戦の末同大を敗り優勝の可能性を深くした。

5月26日　関大 17——10 立命

J・フライ級○佐藤 判定 前田

フライ級　○吉津 判定 日尾
　　黒川 判定 岡村○

バンタム級　○三国 KO 1回2分12秒 山本
　　○稲葉 TKO 2回2分27秒 押本

フェザー級　○安田 TKO 3回2分24秒 山中
　　○成瀬 TKO 2回終了 高崎

ライト級　○尾白 判定 村上

ライトウエルター級　○遠藤 判定 金本

⊙撓競技部═5月17日神戸王子体育館で関西撓競技優勝大会が行はれ、大学の部で堂々優勝したが、五月中の重な戦績をひろえば次の通りである。

5月3日　大阪府民体育祭撓競技大会

1回戦　本学20—13阪急B

2回戦　本学9—6官庁クラブ

優勝戦　本学2—11阪急A

阪急Aに敗れ2位となる。

5月9日　第二回対税関剣道試合

本学7—6大阪税関（2引分）

5月17日、三大学撓競技リーグに本学Aクラスは関学Aチームを敗り優勝した

1回戦　本学A 51—6.5 関学Cチーム

2回戦　本学A 35—10.5 同大Aチーム

優勝戦　本学A 17—9 関学Aチーム

森田 4.5—4 三谷

佐伯 1—1 干野

増田 2.5—3 山田

和田 7—1 山本

深山 2—0 田村

⊙馬術部═復活対日大第四回定期戦を5月18日挙行したが、全馬共目立つ難馬がなく、接戦となりアンカー坂本のゴール迄勝敗のわからぬ一戦であつたが辛勝した。

5月18日　本学 —104——122 日大

続いて行はれた関々定期戦を西宮金鈴会馬場で行つたが、左のスコアーで敗れた。

本学 —449.0——54.25 関学

五月二十七・八両日には青谷クラブで新加入浪大を加え阪神五大リーグ戦を行ひ本学新人、及レギュラー、共に健闘したが不運にも勝利を得ることが出来ず敗退した。当日の戦績は次の通り、

本学 —303.75—±15——288.75

本学 —95—±155.5—250.5 浪大

新人戦決勝

本学 —237.5—±56——181.5 関学

⊙學園座═新学年と共に当部は演技部・前羽、演出部松田の指導により基礎練習を連日行つてゐる去る5月26日には神戸放送により、放送劇、〃徳造と周平〃を徳造═前羽、周平═明石、真弓═沢田、男・A═松田、男・B═大井の配役で放送好評を得たが、今年の活躍が期待されてゐる。

⊙映画部═優秀映画の紹介・映画批評等を中心に活躍を続けて来た当部は本学の設備の不完全さをクラブの熱で補ひ、大学院講堂で学内での映画鑑賞会を開催、〃風雪二十年〃と〃文化映画〃の鑑賞を行つたが、今後此の種の催しが望まれてゐる。

⊙謡曲部═日本文化としての傳統に生きる当部は去る5月27日大槻堂での大倉流春季狂言大会に参加、更に5月31日には中山寺宝蔵院での謡声会春季大会に参加した。

⊙ユネスコ部═活潑な働きを続けてゐる当部は5月に入り更に定例研究会（研究テーマ〃世界の動き〃）を持ち、相互に研究発表を行つてゐる。

⊙學研部═〃学問を平和のために〃と云ふスローガンを掲げた学術研究祭は去る三十日中之島公会堂で開かれ、前芝確三、壷井繁治、岩上順一、長谷川正安諸氏の講演、民文研の詩の朗読、〃日本の息子たち〃と云ふシュプレヒコール、「小作人の娘」が学研合同劇として上演され、最後に映画「山びこ学校」が上映され、九時頃閉会した。

⊙書道部═経三、阪本の努力で書道部が結成され、文化部、学友会本部の結成確認、新発足した。

（十六頁下段へつづく）

考へ物新題（其四）

一鶏学人

一、大道將棋

例によつて前回の解答を先きに説明いたします。正解は第一図に示す通りで、九回の移動で白石と黒石を左右に奇麗に分けることが出来ます。今回は問題が易しかつたので多数の正解者が出るものと期待していましたが結果は案外でした。経済学部の藤森君がいち早く名乗を挙げられましたがその後一向に正解者が現はれず、前回通り正解者一名と云ふ淋しい結果に終つたことは残念でした。

然し一人でも正解者があれば励みになりますが第一回の七五三の問題のように出題して二ケ月以上になつても正解者が現れないとガツカリします。勿も四四二五七と云ふ正しい答を出された方は十数名の多きに達しましたが残念ながら計算方法に不備な点があつて正解には達いものでした。愈々これは出題者の勝利らしいといささか得意になつていましたが、昨日晴天の霹靂とも称すべき事件が起りビツクリしました。

折からの日曜でのうのうと野球の中継放送を聞いていました巨人と名古屋の熱戦でドラゴンスが優勢に仕合を進めているので気をよくしていますと一通の手紙が配達されました。何の気もなく開封して見ますと「余り自信はありませんが」と前置きした、七五三の問題の解答でした。見る程に読む程に、これぞ待ちに待つた正解で然も一言の非のうちどころもない、完全なものであることが判りました。発信人を見ますとそれが何と大西秀子さんと云ふ善通寺にお住ひの女性の方でした。正に冷水三斗の思ひで、しばらくは茫然として杉山デカチヤンの場外ホーマーに湧き立つ歓声も耳に入らない程でした。

第二回の小谷さんと云い今回の大西さんと云い揃いも揃つて妙麗の女性の方から正解者が出ましたことは、英俊雲の如く集る学報の読者層から見て特筆すべき快事で、フエミニストを以て任ずる筆者の欣快おく能はざるところです。特に今回は遠く香川県から正解者を出しましたことは学報の領布範囲の広大なこと、ひいては関西大学の勢力分野の偉大さを如実に物語るもので、これ亦本学に職を奉ずる者として慶賀の至りに耐えません。

前置きが長くなつて申訳ありませんが待望久しき青い鳥を得た老書生の感激の然らしむるところと御容赦を願ふことにして、大西さんの提出された解答を御披露いたします。答は四四二五七で計算方法は第二図に示す通りです。

この問題は相当多数の方が興味を持つて頂いたことが投書から判りましたし、二三の方から解法の問合せがありましたので、蛇足の嫌はありますが簡単に解法の説明をして置きます。問題は三、五、七等で割つた時に残る余数を与へて元の数を求めるもので、そのような条件を具える数は無数にありますからそれをxと置いて方程式を樹てて解くことが出来ないところに特徴があります。そうしてこの問題を解く鍵はそれぞれの余数に掛けるべき係数を求めることに在つて、それは三人同行七十稀の詩に暗示されていることを前回に説明して置きました。即ち三で割つた余数に何故に七十を掛けるかが判れば後は右へならへで容易に解決します。求める数を三で割つた場合にaが残るとしますと、その数は三で割つて一が残る数のa倍の筈です。従つて余数に掛ける数は三で割つて一が残ることが必要です。然もその数は五及七で割つたとき割り切れないと困ります。従つて五と七の公倍数の中から三で割つて一が残る数を求めればよいことになり七〇が出て来ます。勿も一七五でも二八〇でも差支へありませんが小さい方が計算が楽ですから七〇を採つたまでのことです。この理を押し進めて行けば第一回の問題で三で割つた余数に掛けるべき数は五、七、十一、十三、十七の公倍数の中で三で割つて一が残る最も小さい数をさがせばよいことが判り、正解の一七〇一七〇が求まります。茲で問題になるのはそんな都合のよい数がいつもあるだらうかと云ふことです。割る数を勝手に決めたのでは存在しませんが三、五、七のような素数の場合は必ず存在することが証明出来ます。これも一寸面白い問題ですから暇のある方は考へてみて下さい。

「考へ物もいいが、どうも計算は苦手で」と申される方が多いので、今回は百八十度方向転換をして理窟抜きの至極あつさりした夏向きの問題を考へて頂くことにしました。道頓堀の横町や中の島公園の木蔭でよく見かける大道將棋です。この頃はパチンコにお株をとられて余り見かけませんが、かつては五つ並べと共に街の人気者でした。ところがこの人気者たるや毒舌家の標本みたいで、思はずカツトなつて手を出し引つかかります。今回出題したものも御多分に漏れず筆者がマンマと引つかゝつて恨み骨髄に達した詰め物です。あまりの罵詈雑言に義憤を発し未熟な腕前も忘れて飛出しての一戦盤上に積み上げられた景品のピースを払いのけての進撃に、緒戦は甚だ優勢でした。大道先生の一瞬顔色を変へましたがやをら一歩をとつて奇想天外のところへたらして不敵な笑を浮べました。何を小賢とばかりその歩を切つて捨てましたが後は聞くも涙、語るも涙で、折角有力な

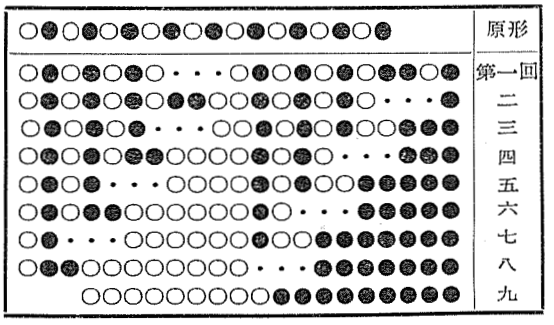
駒を持ちながら差手に窮し否応なしに教授料百円也をせしめられました。騎虎の勢、今一番と挑戦しましたが「もういけません。いや、危いところでした。一体全体旦那のような有段者が」とか何とかお世辞たら〳〵さつさと駒を片附けられた時の無念さ今もつて忘れません。もう金輪際詰め将棋には手を出さぬと決心したものの人だかりがしていると覗いて見ないと気がすまないのは、病膏肓に入るとでも云ふのでしようか困つたものです。

余談はさておき駒組は第三図に示す通りです。七、八級程度の詰め物ですが方々に落し穴が設けてあるので、立見をして最後までで読切るには相当の棋力がいります。「そんな易しい詰め将棋では」と二の足を踏まれるかも知れませんが、筆者の無念を晴らして頂く意味で多数の読者諸賢の応募を懇願いたします。一の六の歩がなくとも詰むようでしたら落し穴にはまつている証拠ですから再考して下さい。

問題、第三図の詰手を求む。但し攻防の変化、特に本文に述べた間歩の名手を御指摘下さい　（短大教授）

お知らせ—経済学部二年次藤森惠次郎君、正解賞が出て居ります。学報局迄

第一圖



第二圖

170170 × 1 = 170170
51051 × 2 = 102102
145860 × 3 = 437580
46410 × 4 = 185640
157080 × 5 = 785400
195195 × 6 = 1171170
2852062

3 × 5 × 7 × 11 × 13 × 17 = 255255
2852062 ÷ 255255 = 11アマリ44257
答　44257

第三圖

學生ニュース

第三回北村杯爭奪全日本学生招待優勝雄弁大会

関西大学雄弁会ではこの程関西大学創立六十七年記年祭の行事として本学推薦校友元大藏大臣北村徳太郎氏を迎え六月二十六日正午より雄弁大会を開催することゝなつた。既に申込も多数ありその成果が期待される。

訂正

第二五九号（五月号）の本文中8頁海外彙報第二段十四行目 E. C. Blanden とあるのは E. C. Blunden の誤り、謹しんで訂正申上げます。　（係）

（十四頁よりつづき）

⊙**放送部**—ラヂオ放送設備が一先ず完成すると共に、放送部の発足が企画され、執行部の須賀・文化部々長・枝松がそのリーダーシップをとり着々準備を進めてゐたが、プランナー、アナウンサー、ミキサーを多数の志願者より選抜し、愈々発足学内放送に新しい息吹を与えることと思はれる。又学外活動の面としては放送連盟が関々同で結成され、放送劇、ニュース取材の面に今後の学生放送陣の活躍が楽しまれてゐる。（写真は五月二十六日〃徳造と周平〃に出演の学園座メンバー、神戸放送第一スタジオにて）

領主・代官・農民

末永雅雄

江戸時代の農民の経済的窮乏と、その農民からの搾取を当然と心得ている代官、しかし搾取をさせなかつた領主、領主も搾取者がすべてでなく、意外にもこうした様に農民への思い遣りをもつ人もあつた。これは寛文九年から元禄十年までのある時期における頃の一領主の手記である。尤も寺領であつて宗教的教養が高い為に、他の領主と異るところがあると思われるが、当時としては珍らしい内容を示している。

普門山寺領の事

世間俗人の知行とは甚異事子細あり、然は又用様子も各別也、先出家と云は円頂形をあらためて仏弟子となる也、修行之道制戒尤すくなからすといへとも、世の資財をすてゝ乞求満足するを本とす、かくのことき子細なれとも、今時末世のかなしさは左様のわけをもきゝ、感ずるものだに少く、いにしへは三宝をうやまひ、或は住持の人の徳によりて、寺領を寄附せしめられた。

この例にしたがひて只今もかたしけなく、法皇・女院両御所の御恩として、此寺に関東より寺領を寄附せられたる者也。

我に何の徳ありてか此重々の御恩にむくふへきや。然れとも会裏の一衆、我滅後に、他方に分散せんことを、不便さあはれに思ふゆへに、心もみたれて此おも事山のことゝなる寺領を荷もの也。

此子細にてあるにより、更に我物にあらす一大事のものなれは、みたりに用る事冥加のほとおそろしく朝夕これを思ふ也。

又其上食時の作法に五観の想念といふ事あり。食するとき此米は百姓の、はしめ種をまきしより実のりて米になるまて、まことにまことに皮肉のあいたより汗をなかし、幾千万の苦労をして骨を折て、漸成就して一粒まんはいになるものなれは、我徳行をはかりてそれは相応するほとに用へきとの心也。

これを思へは我にさらに徳なき故に、人の辛苦したるものを、我は居なからゆるとして用事は、扨も扨もおそろしき地獄の業を招事なりとて心いたくおそれ入也。

しかれは其百姓の脊血の衣をきて安楽にほこらんことはいかほとの大罪そや。これを思ふかゆへに世人の知行のことく、百姓のいたみをかへりみすむさほりとりて、妻子までも迷惑いたさせ申事は、さても不便千万我心は血のなみたをなかすことく思ふなり。かようの仏道の子細は清右衛門なとは、又夢にもしるましき道なるべきゆへに、只たすらに少にても百姓手前より、つよくとりたてこなたの用にたて申事、第一の奏公と思ふ覚悟なるへし。世人の風儀にしては一段ためをおもふ心入なりとまんそくする人もおほかるへし。此山内の風儀にしてはかつてあひ申さぬ事なり。

人のめいわくをあはれみなくおしとりて、わかたのしみにとおもう事は、一毛双なく候故、我ら心に大きに不叶して、かへりてなけきのもと也。

其上凡人は目にみるところを実とおもひ、目にみえぬことは何事も少もしらぬ事のみなり。施は福の本なるゆへに、ほとこしをなせは思ひよらぬ幸をうること道理ある事なり、又福つくるかゆへに死ともいへり。然は福寿ともにゆたかにたもつは施行にましたる事はなき也。

とかく百姓のいたまぬほとといふもいまた世俗の慈悲ふかきに似たり。我風儀にはいたまぬといふ其上に、いまた慈悲を加へて

たかき屋にのほりてみれは煙たつ民のかまとはにきはいにけり

これをたのしみとすること我本望なれは、清右衛門もせつかく奉公とおもふ所存にて百姓をいためて成ともすこし成とも多取へき事を、めしかけ申候は我心に入候事少もなく、千々万々気之毒なりとおもへは、皆かへりて不忠に成にあらすや。

何の奉公にもならぬのみならす、いままて一人も百姓の出てかへるといふ事なきに、ことしはしめて四五人出てかへりて村中ことの外さはく様子とみたり、かようのめすらしき事出来、人の多となへ成外聞もあしき事かきりなし、名のたつかはりにてさへよろしからぬに、いはんや右に出道第一修行之道にそむく事は、いかやうの義にてもならぬ事なり。

左様にあれは此大事の寺領なるゆへに、清右衛門まかせに自今已後なるましき也。其外の事は才覚なれとも代官は下手と思ふ也。とかくに過不及にて

我おもうやうになく、心にかなはねは代官と云者はなく、此寺領はたゝ今より文智あつかりて、其時々にしたかひ誰に成ともいひつけて、納所いたさせは何の子細はなき事なり。

なかゝらぬ一生、殊に老後にわつかなる寺領の事までに、とのかくのと心苦労して何の益なき事なりとおもひさだめてこの通書付候。是はいつかたも首尾よくよろしきやうおもふゆへに、普参に口上いひふくめたるふんにて、埒明かたきにつき実気の時分、遠路よひくたして使を願度おもひ可通にて候了簡あるへき事也。

右は現在奈良市外南方帯解町円照寺門跡の寺領である。文中清右衛門なる代官の搾取を、門跡が抑止されたときの代官に対する書翰であつて、「法皇・女院」とあるは後水尾天皇と中宮東福門院、「文智」とあるは円照寺門山大通大師文智女王、普参は侍衆の尼僧の名、大通大師は後水尾天皇第一皇女、寛永十七年八月廿八日二十二才をもつて、仏頂国師（一線文守）について得道され、元禄十年一月十三日七十九才で享寂された。

この書翰は元禄に入つてからかそれに近い頃であろう。書体からもまた、文中に老後とあるなどから察せられる。

円照寺ははじめは京都の修学院離宮附近にあり、のち大和の添上郡八島村に移り寛文九年秋現在地に寺地を定め山村三百石を領して現在に及んだ。

一般には山村御所（殿）で知られ、臨済宗、妙心寺の客分として待遇されている。開山は明正、後光明、後西、霊元、四天皇の姉宮にあたらる為に、その当時における位置を察しうるが、開山は仏道修業者としてあらせられたことが、右の一文をなし得たのであろう。

（昭和二八・五・二三）

―文学部教授―

日々是闘争

学報屋のひとりごと

×月××日　あさつてハーヴァード大学からE教授が千里山に来ると連絡があつた。これは学内報の記事になるぞ、さて所で写真の方はどんな具合だろうか。前にコルトーを撮つた時キヤノンでやつて大失敗をしたからこんどはどれにしよう。レンズF1.8を信用して自信満々で現像したら辛じて姿が写つてる程度、あの時暗室の中で何とも訳の分らぬ声を出して笑われたが…。先日フランスのD氏が来たとき使つたのが良さそうだからあれにしよう。うまく出来たらそれを表紙写真に使おう。

○月○○日　学生の新聞に出ていたあの記事は、あれは確かに掲載不適を云われてる記事の筈だ。早速校友のS氏が来て〃学報にはあれは掲載しないのかい〃とネジ込まれ、弁解これ努めた。新聞のスクープというのも案外こうした悩があるのも知れない。この間もM社に勤める友人に会つてこんなような事でデスクに怒鳴られたとぼしていたけど、学報局にも新聞社並みの通信網が欲しくなつた。

△月△△日　原稿締切日が近いのに未だ原稿が集まらない。定期物はもう来てるのだが、広く執筆者を求めよといつも叩かれ、毎月相当数の依頼状を出すのに締切日前の落付かない気持誰も判らないのかなあと怒つて見た所で結局独り相撲、どこかから舞込まないかなあ。M教授、K教授、校友Y氏手当り次第に強引に頼んでおいた。最低これ位は揃えないと意味ないものになつてしまう。それでもやつぱりサス・プロがいるかな、何か纏つたものを書いて置こう。

○月○○日　今日午後学生新聞社の学生が来て何かニュースがありませんかというので半日横で坐つていた。よく考えると今日は理事会のある日、少しでも学校当局の動きをと頑張つてるわけだが、学生寮建設の具体案を知ろうという肚らしい、〃締切日が迫つているので何とかならぬか〃と強談判、何処も同じ悩らしい。〃君達の通信網も仲々発達してるなあ〃と水を向けて、暗に先日の記事の話をしたら記者の数が多いだけにそこはもう〃抜目はありません〃。仲々立派な腕前だ

△月△△日　先月号思い切つて増頁をしたら早速〃予算が足りなくなるぞ〃とその筋からお目玉頂戴、予定の頁数よりうんと増して恐縮していた所へ頂戴して始めて〃予算というものがある〃とその認識不足を知つた次第、少し度が過ぎたかな。

○月○○日　どうにか原稿が揃つて印刷へ廻した。ホツト一息つくひまもなく来月号の執筆依頼状、H教授は先月からの約束があるから大丈夫とは思つても念の為に出しておこう。近いうちに校友総会があるからこれは立派な記事になるだろう。記事取材計画を完全にしておかないと、話題が豊富なだけに整理がつかなくなるだろう。人手が足りないかも知れないが誰に頼んでおこうか、考えて見ると暇なような忙しいような日々正に是闘争と云いたい様な日課だ。名付けて対活字闘争とでも云わうか。

×月××日　ゆうべおそくやつと校了。いつも出来上りに三日はかゝる、その間に発送の準備、来月はさてどんな構想にしよう。あの記事があるが使い物になるかな、なればあとはうんと楽になるが…結果を専務に報告しておこう。

（O）

關西大學法學會改組について

「關西大學法學會」は、法学の研究にたずさわる教授をはじめ学生・校友を含む団体であります。これまで「關西大學法學會」は、主として教授たちのみの研究団体として単に「關西大學法學論集」を刊行して、これを希望者に頒つに過ぎませんでした。そこで今回別項の会則に示されているように、組織を新たにし、ひろく会員を募り、学園内の一つの大きな研究団体として再発足することになりました。本学会は、年四回「關西大學法學論集」を発行して、会員の研究成果を発表する外、講演会・研究会・実態調査などの事業によつて研究活動を進め、併せて会員懇親の実をもあげたいと計画しております。学生諸君や校友諸氏の熱心な協力により、本学会の事業を隆盛ならしめ、今後大いにこれを発展させたいと念願しております。何卒多数の学生・校友の方々の入会せられるよう切に希望いたします。

一九五三年五月

關西大學法學會
代表　法学部長　木村健助

注意　会費納入には「振替口座大阪六六八八二番」を御利用下さい。

關西大學法學會規則

第一条　本会は關西大學法學會と称する。

第二条　本会は法学の研究を促進し、且つ研究の成果の発表を目的とする。

第三条　本会は左の事業を行う。
一、機関誌「關西大學法學論集」の発行
二、その他本会の目的を達するため必要と認めた事項

第四条　本会の事務所は關西大學法学部内に置く。

第五条　本会は左の者を以て会員とする。
一、法学部の教授、助教授、専任講師、助手及び副手
二、法学部学生及び大学院法学研究科学生
三、法学部または大学院法学研究科の卒業者であつて入会した者
四、その他評議員会で推薦した者

第六条　本会に左の役員をおく。
一、会長　法学部長を以てあてる。
二、評議員　教授、助教授及び専任講師を以てあてる。
三、編集・庶務・会計委員　会員中より評議員会にて委嘱する。その任期は一年とする
但し重任を妨げない。

第七条　会員は会費年額五百円を納めることを要する、但し学生会員は三百円とする。

第八条　会員は機関誌「關西大學法學論集」の配布を受ける。

第九条　この規則の改正は評議員会の決議による。

▽編集後記△

◇先月号巻頭言で指摘した東京の某大学運動選手の不正入学が暴露されたと新聞記事にあつた。一事が万事というわけでもないが何だか予言が当つた様で空恐ろしい。

◇本学にも先頃某運動部員の合宿地での暴行が大きく取上げられた。その結果は夫々責任者に任せるとしても、このことが原因で各方面から痛くもない腹を探られるとなると事件も只の事件で済まなくなる。合宿地附近の校友から憤慨の声も二三聞くが、君の学校の後輩が……と云われた時穴があれば入りたい様な気がしたという。近く夏季休暇を迎へて又各地で合宿が始まる、特に自重が望まれる次第。

◇今月号は各地からの校友会開催のたより、御盛会を心からおよろこび申上げます。（O）

昭和二十八年六月十日印刷
昭和二十八年六月十五日発行

關西大學學報　第二六〇號

一年誌代実費三〇〇円（送料共）

編集兼発行人　大阪市大淀区長柄中通二丁目一二番地　久井忠雄

印刷者　大阪市北区川崎町七　西井幾藏

印刷所　大阪市北区川崎町三七　株式会社ナニワ印刷所　電話堂川（七三〇）三一九三番

発行所　大阪市大淀区長柄中通二丁目　關西大学学報局　電話堂川（35）一七五六番　振替大阪二六七七二番

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和二十八年六月十五日発行（毎月一回十五日発行）

關西大學學報 第二六〇號・六月號

定價三十円

RECENT ACQUISITIONS OF FOREIGN BOOKS

February through March, 1953.

ECONOMICS

Ricardo, David. The works and correspondence of David Ricardo. 1951. 9v. 330 R2 8-1/9

Weiler, E. T. The economic system: an analysis of flow of economic life. c1952. 869p. 330 W16 1

Hawtrey, R. G. Economic aspects of sovereignty. 1952. 191p. 330.031 H1 1

Arnold, Thurman W. The folklore of capitalism. 1950. 400p. 330.1 A1 1

Haley, Bernard F. A survey of contemporary economics. Vol.2. 1952. 474p. 330.102 H9 1

Newman, Philip Charles. The development of economic thought. 1952. 456p. 330.102 N2 1

Schneider, Erich. Das Gesicht der Wirtschaftstheorie unserer Zeit und das Studium der Wirtschaftswissenschafen. 1947. 30p. N 330.102 S1 1

Spiegel, H. W. The development of economic thought. c1952. 811p. 330.102 S9 1

Stone, Richard. The role of measurement in economics. 1951. 85p. 330.16 S1 1

Conan, A. R. The sterling area. 1952. 192p. 330.19 C2 1

Meade, J. E. A geometry of international trade. 1952. 112p. 330.19 M1 1

Chang, Tse Chun. Cyclical movements in the balance of payments. 1951. 223p. 330.1902 C1 1

Cole, G. D. H. Introduction to economic history, 1750-1950. 1952. 233p. 330.2 C2 2a

Cole, G. D. H. Introduction to economic history, 1750-1950. 1952. 233p. 330.2 C2 2

Clapham, John. The Cambridge economic history of Europe. Vol.2. 1952. 604p. 330.23 P2 1-2

Craf, J. B. Economic development of the United States. 1952. 598p. 330.253 C4 1

Pigou, A. C. Essays in economics. 1952. 241p. 330.4 P3 3

Robinson, Joan. Collected economic papers. 1951. 236p. 330.4 R3 2

Samuelson, P. A. Readings in economics. 1952. 484p. 330.4 S5 1

Hicks, J. R. The social framework: an introduction to economics. 1952. 283p. 330.7 H2 1

Scitovsky, Tibor. Welfare and competition. 1952. 457p. (Library of economics, Sect. 2, No. 5) 331. S8 1

Robbins, Lionel. The theory of economic policy in English classical political economy. 1952. 217p. 331.0102 R1 1

Varga, E. New data for V.I. Lenin's Imperialism. c1940. 322p. 331.02 L1. V1 1

Luxemburg, Rosa. The accumulation of capital. 1951. 475p. 334.3 L2 1

Canfield, Bertrand R. Public relations: principles and problems. 1952. 517p. 335.01 C2 1

Mellerowicz, Konrad. Allgemeine Betribswirtschaftslehre. Bd. 1, 3. 1952. 2v. 335.1 M3 1a-1/2

——Bd. 2. 1952. 335.1 M3 1b-2

Cole, G. D. H. The British co-operative movement in a socialist society. 1951. 168p. 335.7023 C1 1

Schnettler, Albert. Der Betriebsvergleich. 2.Aufl., 1951. 372p. 335.81 S1 1

Nordsieck, Fritz. Die schaubildliche Erfassung und Untersuchung der Betriebsorganisation. 1951. 158p. 335.83 N1 1

Myer, John N. Financial statement analysis. 1952. 272p. 335.85 M1 1

Tiffin, Joseph. Industrial psychology. 1951. 553p. 335.8801 T1 1

Stigler, George J. The theory of price. c1952. 310p. 336.2 S5 1a

Bezanson, Anne. Prices and inflation during the American revolution, Pennsylvania, 1770-1790. 1951. 363p. 336.2025 B1 1

Coulborn, W. A. L. A discussion of money. 1950. 356p. 336.3 C8 1

Einzig, Paul. Inflation. 1952. 222p. 336.3 E3 1

Shaw, Edward S. Money, income, and monetary policy. 1950. 661p. 336.3 S12 1

Simmel, Georg. Philosophie des Geldes. 1922. 585p. 336.3 S10 1-a

Merkle, Franz. Produktivität und Rentabilität. 2.Aufl. 1951. 168p. 337 M2 1

PUBLIC FINANCE

Moore, Justin H. Handbook of financial mathematics. 1947. 1216p. 340.1 M1 1